

発議第1号防衛力増強より平和外交に力を尽くすよう求める意見書について賛成の立場で討論いたします。

今回の賛成討論をどのような内容にしようかと何度も練り直した結果、私のこれまでの平和について学んだ経験を少し述べさせていただきます。

私は、学生時代から太平洋戦争について知るために、著名な方の講演会で話を聞く、書物を読む、戦争を体験した方に話をお聞きするなどを繰り返してきました。

学生時代と言えば、20歳そこそこです。若い人の聴衆は珍しがられ、インタビューを受け、コメントを求められることも少なくありませんでした。

東京大空襲を書かれた早乙女勝元さんの講演を聞き、多くの人に知ってほしいと学園祭での講演会を交渉したこともありました。

ある学習会で出会った方は対馬丸からの生還者でした。昭和19年沖縄から九州に向けた疎開船には多くの学童らを乗せた対馬丸はアメリカ軍によって撃沈されました。護衛には敷設艦・白鷹や駆逐艦・響などが当たっていましたが、攻撃を受けるとその場をすぐに離れ、救助どころか、戻ってくることはなかったと言います。海に投げ出され何かしらに必死につかまる子供たち、大人も波に流され徐々に離れて行く中、それでも海に浮かぶ数人が、徐々に疲れ果て、力尽きて海へと沈んでいく、そんなむごい光景だったと昨日のここのように話してくれました。

また沖縄では、空襲警報が鳴り響き、生まれて間もない我が子を抱きかかえ逃げ込んだ母親。我が子が泣き叫ぶと、周囲からうるさい、見つかるだろうと叱責され、思わず我が子の口を塞ぎ、気がついた時には我が子は息をしていなかったというむごい話を聞きました。

沖縄の辺野古基地建設反対の座り込みに参加した時、現地のおばあから聞いた話は、地上戦があった沖縄本島で、追い詰められ逃げ惑う住民がようやく辺野古までたどり着き、辺野古の海に命を救われた。命を救ってくれた辺野古の海を、今度は基地建設で奪われるとの怒りの声は、私たちにも大きな責任を突きつけられた思いでした。

当時、多くの武器があれば、このような戦争被害は起こらなかったのでしょうか。

市民の命と暮らしは守れたのでしょうか。

防衛力を増強すれば、戦争被害はなくなるのでしょうか。

先日NHKが放送した「日本人はなぜ戦争へと向かったのか」の録画を見ました。公の場でないところでは、圧倒的な国力、戦力に差があると、十分承知していました。多くの被害も出ることが分かっていました。負ける戦と知りながら、公の会議では戦争は駄目だ、戦争反対の声を上げられませんでした。

私たちは、毎日のようにマスメディアを通してウクライナにおける惨状を目の当たりにしています。世界各地で反戦デモが行われ、世界中の人々が不安を募らせています。

ウクライナへのロシア進行がもたらした日本の防衛力増強は、市民のためのものではありません。暮らしと命を脅かす判断です。

北朝鮮の脅威や台湾有事にあおられることなく、アジアの平和外交に尽力すべきです。

防衛力増強が叫ばれている中、食の安全保障に目を向ければ、酪農家の中には、限界を超えている方々がいます。増税してでも防衛費は5年で43兆円に跳ね上がる。しかし生産基盤を増強しなければならない農業分野には、コメ作るな、牛乳絞るな、牛殺せ、ついには生乳廃棄が起きています。

国民に食料を供給できる国内生産はどうなっていくのでしょうか。SDGs関連では、莫大な予算が昆虫食に計上されるとの情報もあります。現在の農業予算は総額2.3兆円なのに、防衛力には補正も含めると毎年10兆円以上が当てられます。

トマホークや昆虫食で、飢えはしのげません。戦う前に飢えてしまいます。そして武器で命は守れないと申し上げ賛成の討論といたします。